８／26　校長室より

豊かな海へ森づくり

県鮨商生活衛生同業組合　子どもたちと草刈り

飯豊　県鮨商生活衛生同業組合（飯沢徹理事長）による森林づくり活動が31日、飯豊町の源流の森で行われ、町内の児童生徒が草刈り作業に汗を流しながら森と海のつながりに理解を深めた。

雑草の刈り取り作業に取り組む子どもたち＝飯豊町・源流の森

県内53のすし店が加盟する同組合は、豊かな海を次世代に残そうと、約20年前から植樹や森林整備などの「海の幸を育む山に緑を」プロジェクトを展開している。約20人の子どもたちが参加し、背丈ほどある下刈り鎌を手に、繁茂する雑草をきれいに刈り取った。講話で河川を通して海の幸となる森林の大切さを学び、飯豊二小6年の斎藤優馬さん（11）は「山と海がつながっていきたい」と話した。

参加者は引き続き、十津川地区公民館で巻きずしづくりを体験した。のり上に酢飯を広げ、玉子やキュウリ、かんぴょうなどの具材を載せて巻き上げ「まくできた」「思ったよりも太い」とにぎやかに声を上げていた。（須藤）

ちょうど１週間前

飯沢徹理事長様(県鮨商生活衛生同業組合)が来校され

拡大した記事(8/1 山形新聞)と本校参加者への

感謝の言葉をいただきました

飯豊の子ども達と環境のよさを　くり返し　伝えてくださいました

地域から直接呼びかけがあり　　自主的に参加した生徒がいて

背中を押してくれる家庭があり　　感謝を伝える方々がいる

「地域の力」のお陰で

当事者も　そうでない者も

プラスの刺激や影響を受けることができています